

市議会あんな話・いじんな話

第27話

「洲崎に中央卸売市場（前編）」

昭和9年12月8日の鹿児島市会（市議会）は、鹿児島中央卸売市場を洲崎（城南町）に開設する件を満場一致で議決しました。これを受けて、翌10年7月6日に起工式を挙げ、中央卸売市場は同年11月4日にセリ声も高らかに営業を開始しました。

中央卸売市場が開設されるまで、鹿児島市の市場は旧藩政時代からの魚市場が仲町の納屋通りにありました。青果市場は名山堀や小川町の海岸に散在していました。市当局では昭和初期から中央卸売市場の研究、調査に当たっていました。卸売市場問題が具体的に動き出したのは4年ご

ろからでした。

当時、市会副議長の田中慶次郎氏らが「市有地のたばこ専売分工場跡地（山下町）を利用してはどうか」と市当局に進言しました。しかしこのときは進展はありませんでした。動きが本格化したのは8年に第10代岩元市長が誕生してからでした。

9年に入ると山下町、六日町（名山町）など10町の有志が市と市会に「中央卸売市場はぜひ名山堀に開設してほしい」との陳情書を提出しました。市はこのときすでに中央卸売市場候補地としては洲崎が最適地であるとの見解を持っていましたが、公表はしませんでした。その最大の理由は「中央卸売市場の機能から

みて魚類の広い水揚げ場を併設できることが絶対条件である」と判断し、名山堀では狭すぎると診断していたからです。洲崎には、鹿児島港の築港工事と関連して埋め立てられ造成された用地があり、そのうちの一部を中央卸売市場用地に転用する計画をひそかに練っていたのです。



市中央卸売市場は洲崎町(城南町)に開設された(写真は開場式での記念撮影)